



文化庁選定保存技術公開事業

にゅうじょう さん か
入場・参加
む りょう
無料

にっぽん わざ たいけん 日本の技体験フェア

わたくし たいせつ ざいさん ぶん か ざい みらい のこ
私たちの大切な財産である文化財を未来に残していくために欠かせない伝統の技「文化財の保存技術」。
ぜんこくかくち ぶん か ざい かげ ささ つづ しゅうりぎじゅつ ざいりょう どうぐ せいさく わざ いちどう あつ
全国各地の文化財を陰で支え続けてきた修理技術や材料・道具を製作する技が一堂に集まります。
いま う つ かずかず わざ かずかず き かい らん
今に受け継がれてきたかけがえのない技の数々をこの機会にぜひご覧ください。

ふれてみよう!

ぶん か ざい
文化財を

まも つづ
守り続けてきた

たくみ わざ
匠の技

群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

2016

10.22±23日

10:00-17:00

10:00-16:00

まへ ばし
ヤマダグリーンドーム前橋 サブイベントエリア

群馬県前橋市岩神町1-2-1



【主催】文化庁 【共催】群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、全国文化財保存技術連合会

【後援】上毛新聞社、朝日新聞社前橋総局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、産経新聞前橋支局、東京新聞前橋支局

日本経済新聞社前橋支局、共同通信社前橋支局、時事通信社前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ、株式会社 エフエム群馬

【選定保存技術】文化庁では、「文化財の保存技術」のうち、保存の措置を講ずる必要があるものを「選定保存技術」として選定し、その技術の保持者や保存団体を認定して、技の保存・伝承を図っています



文化庁



文化財愛護

国宝や重要文化財建造物を保存修理・活用していくためには、
専門的な知識と経験に裏打ちされた技術者による
設計監理を欠くことができない

建造物修理・木工

文化財建造物は、社寺、城郭、住宅、近代建築などあらゆる分野にわたっています。その構造も、木材、石造、煉瓦造、鉄筋コンクリートなど多種で、地域や工匠達の系統による差もあります。これらの建造物の保存修理には、高度な専門的知識が必要であり、大工等の技能者に対し実技を指導しうる能力をも必要としています。



体験

摺り拓本を写し取ってみよう！



旧富岡製糸場 東置願所

会場① (公財)文化財建造物保存技術協会



壁掛けづくり<木枠づくり体験>

壁掛

体験



慈尊院(和歌山県九度山町)

会場② NPO法人 日本伝統建築技術保存会

日本の木造建築技術は、千数百年以上昔から綿と受け継がれ、我が国の気候風土と融合、調和して発達を遂げてきた日本が世界に誇る技術のひとつです。日本の伝統的木造建築技術を守り、次代に継承するためには熟練した「木工技能者」が必要です。

建造物木工

文化財建造物の修復において、設計手法や施工技術を解明し、適正な施工をする「木工技術」



石清水八幡宮楼門(京都府八幡市)

壁掛

体験

あらゆる調査と地道な研究により、歴史的建造物の美を後世に伝える「装飾の技」

建造物装飾



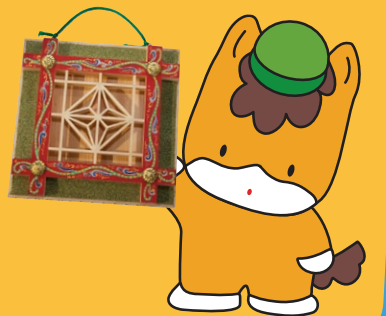
壁掛けづくり<彩色体験>

神社や寺院などの建物に施されている装飾には、漆を使った「漆塗り」、絵具を使った「彩色」などがあります。いずれも1400年以上の歴史ある日本の美を支える伝統技術です。伝統的な建物の装飾には、私たち日本人の先祖の営みと綿々と受け継がれている美意識を見ることができます。

体験ラリー

壁掛

このマークのある団体を巡り体験を行うと素敵な壁掛けが製作できます。※お持ち帰りできます。



縁付金箔

極めて薄く、しなやかで大きく、色艶の良い縁付金箔は、漆器の装飾や建造物の保存修理に使われる



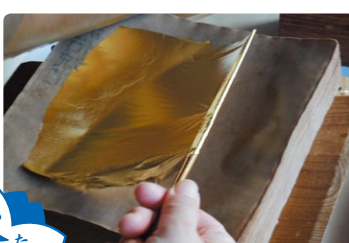
日光東照宮 陽明門

彩色

社寺建造物を鮮やかに装飾した先人達の色彩を甦らせる「彩色」

縁付金箔製造は、手漉和紙を加えた打金箔に金を挟み、1ミリの金箔を製造するもので、日本の伝統的な製箔技術です。打ち上げられた箔は、革板の上で一枚ずつ裁断され、箔合紙に移すして仕上げられます。会場ではこの様子を実演しています。

体験



縁付金箔を貼って、彩色を体験しよう！※各日50名限定



三猿(見ざる、言わざる、聞かざる)でも有名な日光東照宮をふくむ世界遺産に登録されている日光二社一寺をさまざまな「彩色」の技術で、美しく彩られた建物の技術として甦らせています。



会場④ 金沢金箔伝統技術保存会

会場⑤ (公財)日光社寺文化財保存会



厳島神社(広島県廿日市市)



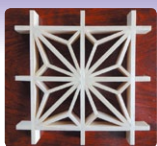
体験

檜皮葺の屋根を葺いてみよう！

古来より連綿と受け継がれてきた
我が国固有の「屋根工法」
檜皮葺
柿葺・茅葺
檜皮葺…檜の立木からむいた皮を薄く整形し、竹釘で打ちとめながら葺き重ねていきます。それらは、世界遺産に登録されている厳島神社など伝統的な古建築に残されています。
大屋根が、檜皮の耐久年限とされる30〜40年の周期で葺き替えられ、建物を風雨から守っています。

会場⑥ (公社)全国社寺等屋根工事技術保存会

木材を組み合わせた
細工を施す「組子」は、
建具のなかで
突き抜けた美しい技



建具製作

神社や寺院などの建具〔戸や窓など〕を製作する技術です。組子細工による装飾など、繊細な美的表現も必要とされます。

会場⑦ (一財)全国伝統建具技術保存会



仁和寺金堂(京都市)



体験

壁掛けづくり<組子体験>



トビック

今と未来をつなぐ

鈴木 正
[選定保存技術
(建具製作)
保持者]

古い物をただ新しくするのはなく、
傷んだ所を大切に外し、使える木は大切に使い、昔の工法に寄り添って修復して後世に伝える。外し方から修復の仕方まで、次の世代に受け継ぐことが仕事だと思っています。



伝統的な左官技術には茶室などに用いられる古式京壁と、城郭に使われる漆喰壁があります。お城の壁と言えは姫路城のような白亜の壁を思い浮かべますが、この壁が漆喰壁です。美しく、時に強靱さをもつ壁を作るには材料の吟味や調合方法、水引加減の見極めなど熟練の技術が必要です。

体験

壁掛けづくり<左官体験>

会場⑧ 全国文化財壁技術保存会

左官(日本壁)



姫路城

文化財建造物の畳の高麗縁の隣合った模様を伸縮させながら縫い合わせる、高度な「畳製作の技術」

畳製作

畳は世界に類を見ない日本固有の文化です。文化財建造物にはさまざまな様式の伝統の畳が使用されてきました。畳床に畳表を張り、絹などの畳縁を縫い付けて仕上げます。さらに装飾的な紋縁を使用した紋合わせと呼ばれる特殊な技法などを保存継承しています。



実演

伝統畳の製作の実演

会場⑨ 文化財畳保存会

戦国時代に城郭とともに発達した石垣の修復に活かされる、「石を必要な形に割る技法、緊密に積み重ねる技術」

文化財石垣保存技術



姫路城 帯櫓石垣

文化財に指定されている城郭などの石垣は、日本の伝統的土木構造物として、世界に誇る代表的な文化遺産です。解体、修理にあたっては研究者や専門家と連携しながら伝統的な技術を用いて進めます。



体験

石割を体験してみよう！

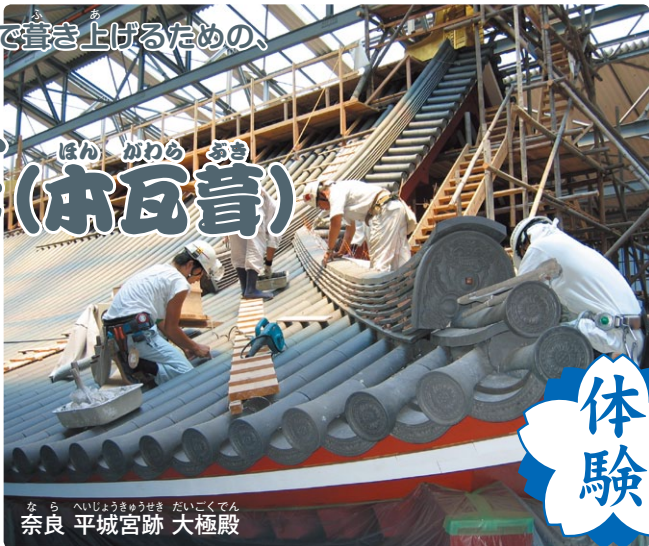
会場⑩ 文化財石垣保存技術協議会

優雅な屋根の曲線を伝統的な技法で葺き上げるための、
判断と技能が求められる“本瓦葺”

屋根瓦葺(本瓦葺)

震災で被害のあった熊本城など日本の伝統的な建築物の屋根には本瓦葺が多く使われています。本瓦葺は雨や風への対策を考えた上で、軒の反りや屋根の優美な曲線を伝統的な技法で葺き上げる大変高度な技術です。

会場 11 (一社)日本伝統瓦技術保存会



奈良 平城宮跡 大極殿



体験

瓦の型抜き体験してみよう!



山本 清一
[選定保存技術屋根瓦(本瓦葺)保持者]

「ものづくりはひとづくり。日本は技術で成長したいわば職人の国。人を育てるということはそれだけで国の利益になる」生み出した作品や技術の工程を分かりやすく後世に伝えようと励む一方で、土の感触や動が瓦の出来を左右するとの信念は揺るがない。



名勝 楽山園(群馬県甘楽町)



各時代の文化的特徴を反映し、
自然への深い想いを持ってつくられた“日本式庭園”

文化財庭園保存技術

会場 12 文化財庭園保存技術者協議会

名勝や史跡など伝統的な日本庭園を未来に残すために、維持管理し、修理・修復する技術です。石、水、そして植物が美しく配されている庭園。そのうらにはさまざまな技術が受け継がれています。



体験

庭師は仕事に使う道具を手作りします。竹の手幕を作ってみよう!



富嶽三十六景 神奈川沖浪裏

19世紀末ヨーロッパを夢中にさせた日本の芸術“浮世絵”

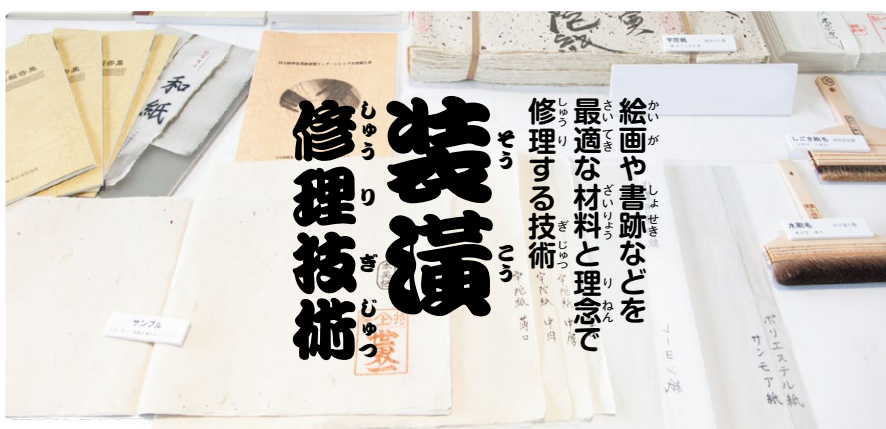
浮世絵木版画技術

江戸時代の印刷、木版を知っていますか?
江戸時代には浮世絵がたくさん作られ、木版の技術が発達しました。浮世絵は展示すると傷んでしまうので、江戸時代と同じ図柄を同じ方法で複製します。版木を彫り、摺る技術が大切に保存されているから、私達は江戸時代に作られたものと同じ浮世絵を見ることができるのです。

体験

版木を使って摺りの体験をしよう!(ブックカバー、菜作り)

会場 13 浮世絵木版画彫摺技術保存協会



装幀修理技術

絵画や書跡などを
最適な材料と理念で
修理する技術

掛け軸や襖・屏風、冊子といった絵画や書跡などの文化財は、多くが紙や絹など、とても弱い材料でできています。数百年もの時を越え、私たちに当時の文化や出来事を教えてくれます。貴重な文化財が今も姿を残しているのは、人々が大切に扱ってきたというだけでなく、適切な時期に定期的な修理が行われてきたからともいえます。装幀修理技術とは、その修理を行う技術のことを指しています。

体験

会場 14 (一社)国宝修理装幀師連盟

手漉し和紙を使って豆本を作ろう!



精密な用具を作り続ける職人の技が手漉し和紙を支える

手漉し和紙用具製作

和紙は美しさ、耐久性、強靱性をもち、文化財の修復にも欠かせないものです。また、天然素材の地球環境に優しい製品でもあり、世界中からの注目も高まっています。和紙を作るには精密で強靱な道具がなくてはなりません。和紙の用具を作る技術が、大切な日本の手漉し和紙を支えているのです。

体験

会場 15 全国手漉し和紙用具製作技術保存会

漉き簀を編んでみよう!





琉球藍製造

良質な藍葉を育てる栽培の技術と、発酵状態などを見極める熟練を要する琉球藍の製造

体験

琉球藍は、本土の藍とは別種で沖繩で古くから栽培され、藍の染料として使用されてきました。沖縄の芭蕉布など伝統染織のほとんどに琉球藍が使用されています。琉球藍の葉を発酵させ、石灰を加えて攪拌し、泥藍を作る工程は熟練を要する重労働です。

会場16 琉球藍製造技術保存会

パンダナを藍染してみよう！



阿波藍製造

東京五輪・パリンピックで注目の藍色、徳島の藍師が伝統を守りながら大切に作り続けている

会場17 阿波藍製造技術保存会

“伝統ある多様な技術”が組み合わせられ、豪華絢爛とした工芸品である祭屋台などを造り出す

祭屋台等製作修理

京都の祇園祭をはじめとする日本各地のお祭りで、山車、神輿などを装飾する『懸装品』という絢爛豪華な幕地。この織物の修理なども大切な文化財保護の技術です。祭屋台等製作修理にはこのほかに多様な伝統技術があります。

会場18 祭屋台等製作修理技術者会



体験

花文を刺繍してみよう！

“染料として重宝された植物”の成分を使用し、染め分けてきた先人の技を今に活かす

植物染料 (紅・紫根) 生産・製造

会場19 (一財)日本民族工芸技術保存協会



紅・紫根は、古くから日本の代表的な植物染料の一つとして、染色に欠くことのできないものです。紅花は、エジプト・小アジア地方原産で古く中国を経て日本に伝来しました。紫草はその根から美しい紫色の染料を作ることができます。天然の植物染料はその効果が見直され、注目されています。ぜひ、植物染料での染め物を体験してください。

体験

22日

紅による染色体験
＜木綿のハンカチ＞

23日

紫根による染色体験
＜和紙＞



からむし(苧麻)生産・苧引き

福島県昭和村は江戸の頃から、からむし栽培技術を伝承してきた本州唯一の「上布用高品質苧麻栽培地」

体験



針金にからむしの繊維を巻き付けてブローチやキーホルダーを作ろう！

会場20 昭和村からむし生産技術保存協会

からむしとは、イラクサ科の多年草で、苧麻とも言われる植物です。からむしの生産技術、繊維を採取する苧引きの技術は昔から変わらず伝承されています。

宮古上布等の織物の原材料である苧麻糸。自ら苧麻を栽培し、糸を作製するまでの一貫した工程を手がける宮古の苧麻糸製作技術者

苧麻糸手績み



苧麻糸手績みとは、苧麻の表皮から繊維をとり、手績みして(繫いで)糸を作製する技術です。沖縄の宮古諸島では糸績み技術者が苧麻の栽培から糸の製作まで一貫して行います。

体験



苧麻績み(糸づくり)を体験しよう！

会場21 宮古苧麻績み保存会

【日本産】

漆生産・精製



参考作品

会場22 日本文化財漆協会

世界に誇る“漆文化”を守り 伝承するために、漆の生産を確保し、 日本漆芸の発展・普及につとめる

日本の漆芸術は、自国において生産された漆によって成り立っていましたが、近年、国内産の漆は生産が著しく減っています。日本文化財漆協会では、漆の木を植え、育て、樹液を精製（塗料になるよう加工すること）するまでの技術を保存するために活動しています。

漆塗りの小皿に針のようなニードルという道具を使って絵を彫って描き、金粉を入れる沈金技法を体験しよう！

体験



漆というと思いきふのは赤や黒に塗られたお椀ではないでしょうか。漆は、漆の木からとれる樹液で、日本が世界に誇るすばらしい原料です。漆には抗菌力があり、漆を塗った器にはバイ菌が付きにくくなります。また、防腐力があつて、素地になつていない木が腐るのを防ぎます。漆器（漆の器）だけでなく、古い建物や仏像や文化財にも漆が使われています。



会場23 日本うるし掻き技術保存会

漆の木の幹に一字に傷をつけ、 木がその傷を癒そうとして自ら出す 樹液（生漆）をヘラで“掻きとって採取”

漆を生産する技術の中に、成長した漆の木の幹に傷をつけて、漆液を採る「漆掻き」技術があります。保存会のある岩手県浄法寺漆は、国内生産量の70%を誇り、接着力が強いなど、その質も大変優れているために、日本の文化財の修復に欠かすことのできないものとして大切に守られています。

実演

漆掻きの実演



仏像を主とした彫刻作品の修理、 修理技術の研究や修理時にしかできない調査を行う

木造彫刻修理

百年を超える文化財修理の歴史があり、代々の技術者に受け継がれてきた木造彫刻作品のための修理技術で、木工、彩色など様々な技術からなります。修理中に仏像を解体すると、像内納入品や、作者名・製作年などを記す墨書などが発見されることもあります。



木造釈迦如来立像（文化庁所蔵）



体験

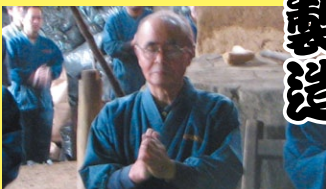
- 仏像の木組みの組立を体験して、仏像の構造を知ろう！
- 赤外線カメラを使い、見えなくなっている絵や文字を確認しよう！

会場24 (公財) 美術院



木原 明

選定保存技術【玉鋼製造（たたら吹き）】
保持者／日刀保たたら村下



渡部 勝彦

選定保存技術【玉鋼製造（たたら吹き）】
保持者／日刀保たたら村下

たたらには千年を超す歴史の中で培われた先人の知恵とものづくりの本質があります。化学的知識のない時代から、長年の体験で培われてきた高度な技術です。



刀鍛冶による名きり、土置きや作刀の実演

会場25 (公財) 日本美術刀剣保存協会



実演

玉鋼

鉄工芸品の最高峰に位置付けられる日本刀。日本古来の製鉄技術で生産されたその素材は他に比類ない優れた品質



日本刀製作や日本刀の原料となる玉鋼を生産するたたら吹き製鋼法、また漆器や金属器の研磨などに用いられる様々な木炭を製造する技術です。木炭の原材料は用途によって異なります。製造方法もそれぞれ異なるため、専門的知識と経験が要求されます。

木炭製造

岡山県の山間地域、豊かな自然に囲まれた場所を中心に、昔から脈々と続く伝統技術で“良質な木炭を製造”

研磨炭



炭で金属を磨いてみよう！

会場26 伝統工芸木炭生産技術保存会



体験



歌舞伎

歌舞伎は、日本を代表する伝統芸能のひとつです。約400年前に発祥し、演劇・舞踊・音楽の各要素を備えた「総合芸術」として現在に受け継がれています。歌舞伎の表現の特徴は、近代の演劇のように写実的ではなく、あくまで舞台上で「それらしく」見えることを追求してきた点です。「それらしさ」を端的に表すために、扮装・小道具・演技が誇張され、それが様式化していきました。

それまで使用していた衣裳をもとに、演じる役者に合わせて新たに再現する「衣裳製作」

歌舞伎衣裳

製作修理



本物の衣裳を着てみよう！

歌舞伎の演目は約400本あると言われています。そこに登場する多種多様な役者の衣裳の仕立て、着付け、衣裳の修理をします。長い公演の期間中も着付けのほか、衣裳のメンテナンスを行い、歌舞伎の舞台を支えます。

体験

会場 27 歌舞伎衣裳製作修理技術保存会

幕が開いた時の期待を盛り上げ、役者の魅力を最大限に引き出す「大道具製作」

歌舞伎大道具

(背景画)製作



歌舞伎の背景画に使われる絵を描こう！

歌舞伎の大道具は背景を描いた「書割」、岩や樹木を描いて切りだす「張り物」など多種多様です。「書割」などの背景幕は、平面的に描かれるのが特徴で、リアルさよりも飾ったときの絵になる美しさが大切とされます。その芝居の内容を理解し、演出を把握したうえで、独特な形式、色使いで「その場面らしい」大道具を作ります。

体験

会場 28 歌舞伎大道具(背景画)製作技術保存会

本物を作り得る知識に加え、役者の要望にも応えながら舞台の効果を高める「小道具製作」

歌舞伎小道具

製作



仕掛小道具を触ってみよう！

小道具には、開幕時に置かれている「出道具」と、役者が持つて使用する「持ち道具」に分けられます。また、小道具を「本物」と「拵え物」に分けることもできます。「東海道四谷怪談」で使用される「戸板返し」などの「仕掛物」、舞台で壊れてしまう皿などの「壊れ物」などは「拵え物」です。「拵え物」は舞台上では本物以上に効果的な働きをします。

体験

会場 29 歌舞伎小道具製作技術保存会

組踊に登場する人物の身分・役柄などをあらわす「道具や衣裳」の製作

組踊道具・衣裳

製作修理

沖縄の伝統芸能「組踊」は沖縄の古語のせりふ、琉球の音楽、所作、舞踊によって構成される歌舞劇で約300年の歴史があります。小道具、大道具、衣裳は「組踊」の上演に欠かせないものです。



くみおどりしゅうしんかねいり組踊「執心鐘入」



体験

会場 30 組踊道具・衣裳製作修理技術保存会

平安時代から変わらぬ技で作り出す絃が、和の音を奏でる

邦楽器原糸

製造

三味線や琴、琵琶、胡弓などの弦楽器の糸(絃)に使われる原糸(繭から繰った糸)を製造する技術です。特徴は「生挽き」という、熱風で繭の中のさなぎを殺す方法。糸のコシや光沢を生むセシリンを保ち、美しい光沢と粘りのある絃となる糸をとる匠の技です。



実演

会場 31 木之本町邦楽器原糸製造保存会

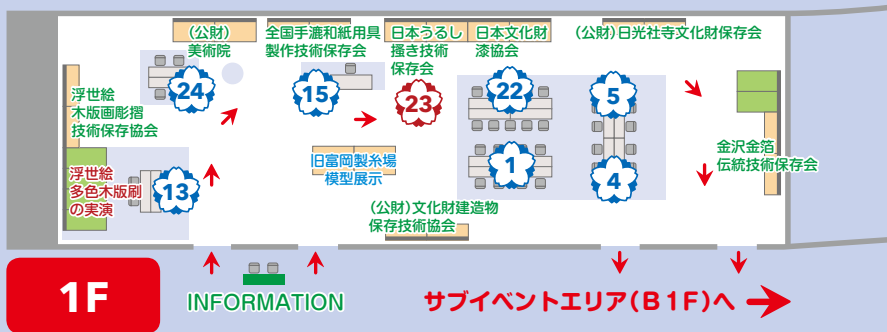
和楽器の絃になる糸を繭から手繰りだす実演

会場図

ぐんまちゃんも
くるよ

10.22土
23日

日本の
技
体験フェア



プレイベント

けやきウォーク前橋 1階けやきコート
群馬県前橋市文京町2-1-1

歌舞伎の舞台裏
～小道具、衣裳、大道具(背景画)～

展示(てんじ) 10/9 日
日本を代表する伝統芸能「歌舞伎」の小道具・衣裳・大道具(背景画)の展示
(11:00～16:00)

インタビュー
歌舞伎の小道具、衣裳、大道具(背景画)の製作技術者の話を聞こう！
(13:30～14:00)

体験
背景画を描いてみよう！
(14:00～15:30)
対象：小学生以上、交替制

名匠たちの技術
～染織(紫染め)、浮世絵、建具(組子細工)～

展示(てんじ) 10/16 日
染織(紫染め)、浮世絵、建具(組子細工)の製作技術者の話を聞こう！
(11:00～16:00)

インタビュー
紫染め、浮世絵の製作技術者の話を聞こう！
(13:30～14:00)

実演
浮世絵の摺りの実演
(14:00～15:30)

お問合せ

「日本の技体験フェア」事務局 (NHKプロモーション内)

TEL: 03-6271-8515

(10:00～17:00/土・日・祝を除く)

文化庁ホームページ <http://www.bunka.go.jp/> 日本の技

体験スケジュールなど詳しくは

「日本の技体験フェア」ホームページ
<http://www.nippon-no-waza.jp>

※実施内容・時間に変更になる場合があります。

第44回前橋市郷土芸能大会

●10月22日(土) 10:00～15:30・23日(日) 10:30～15:30
【前橋公園野外ステージ】市内の郷土芸能と、榛東村の南新井獅子舞のステージ / 景品が当たる抽選会も実施
【体験コーナー (前橋公園野外ステージ前)】勾玉作り、座繰り体験、桑の木クラフト作り、繭クラフト作り
※物産販売もあります。【お問い合わせ】 前橋市文化財保護課 (027-280-6511)

同時開催

「臨江閣」改修工事見学会

●10月22日(土)・23日(日) 各日5回実施(見学等時間40分間)
【参加人数】 各日200名(事前はがき申込100名(多数の場合抽選)/当日現地申込100名)
【申込方法】 10月17日(月)(必着)までに往復はがきで、前橋市文化財保護課まで申込
【お問い合わせ】 前橋市文化財保護課「臨江閣工事見学会係」(027-280-6511)